

みどりの杜俳句会

秋ともし椅子を寄せ合ふたむろかな

佐山けさ子

さはやかや近所の友とお茶飲みす

高橋 きみ

一列に岩に止りて赤とんぼ

安田 久子

夜の雨強く降り出し台風か

鈴木 啓子

川端の灯に集りて蛾の舞へり

馬場 芳

女郎花黄の際立ちて草の中

田村 好子

音細か今朝より山の秋の雨

山崎 才子

連山にかぶさり秋の雲の波

梅沢きくえ

秋の雨岩松の葉のひらきけり

高橋 ツ子

父母の年忌すませて秋高し

吉田 愛子

道の縁高砂百合の実の青し

飯野 トヨ

秋のばら生けて水足す真昼かな

飯野はつ志

葛の花杉に絡まり雲に触る

野口利江子

部屋の中こぼろぎの来て鳴き走る

関口 侑子

鈴虫の響きいつもの田んぼ道

小林 和幸

子守唄口づさみいて虫の声

神田 昌美

天高し勢ひつけて逆上り

大竹 祐也

庭隅にすみれ一輪返り花

金子 圭輔

稗栗の割れ一粒のこぼれ落つ

千野さき子

朝顔や終りと思ひまた開き

岡部富美子

勝手口開け香り来る金木犀

土屋 厚子

電気柵囲ふひと田や古代米

初雁 功子

ダムの土手赤き秋蝶飛び沈む

山田 美子

白石短歌会

歌壇読む世事にはふれぬ事ばかり

皆強いなあと一人つぶやく

我が山に良くぞ実ってくれたねと

言いつつ束ねるかまざるの枝

目覚め時カーテン放つ硝子越し

なんと優しき秋海棠の花

母植えし曼珠沙華の赤々と

三回忌の経墓にしみ入る

渡邊阿里子

白石 礼子



人権シリーズ

『ネットの危険から子どもたちを守るために』

近年、インターネットやスマートフォンの普及により、知りたい情報を誰でも簡単に入手でき、世界中の人と気軽に情報のやりとりができるようになりました。

一方で、こうした利便性は、容易に自分自身の情報をさらし、間違った情報や人権を侵害する書き込みが簡単に拡散するなどの危険性をはらんでいます。

最近では、スマートフォンを所持する小中学生も増え、親が気づかないうちに子どもが犯罪に巻き込まれる被害や、SNS上での誹謗中傷やいじめなどの問題が深刻です。

ネットの中で起きていることは、親が把握しづらく、「気づき」が遅くなることもあります。特にSNSを利用する上では、知らず知らずのうちに第三者を傷つけることや、匿名性の中で相手の人格を傷つける内容を発信することなど、子どもたちが被害者にも加害者にもなり得るのです。

そうしたネット上での危険から子どもたちを守るためには、普段の生活の中での「ルールやマナー」そして、ネットの中においても「相手に対する思いやりを持つこと」「自分がされて嫌なことは相手にもしないこと」など、親も子どももしっかりと考え、共有していくことが必要ではないでしょうか。

現在の新型コロナウイルス感染症の拡大により、今後世界のデジタル化は一層スピード感を増して進んでゆくことでしょう。誰もが安心してインターネットを利用するためには、「思いやりを持った人間らしさ」を忘れない心が必要と考えます。

東秩父村教育委員 大澤 宣彦